



千葉の博物館の玩具の博物館



令和7年Calendar



千葉県消防協会



博物館に
行ってみよう!

もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館

第14回

白井そろばん博物館(白井市)

インタビュー

“中の人”に
聞いてみました

日本の素晴らしい文化「算盤」。^{そろばん}時代を映す鏡としてその奥深い魅力を伝える

算盤が日本に伝わってから460年余り。白井そろばん博物館では、世界中から集めた算盤や関連資料を約2,500点展示し、算盤を通して世界各国の生活や教育文化の研究、紹介を行っています。

今でも立派に計算道具として活躍している算盤ですが、「集中力」「判断力」など多くの能力が同時に鍛えられることから、現在では世界中で子どもたちが算盤を学んでいます。

算盤を学ぶ子どもたちのいる国々を訪ねてみると、海外の人々が算盤を単なる計算の道具ではなく、日本の素晴らしい文化として捉えていることに気付かされます。私はこの博物館を開設するにあたって、こうした文化としての算盤の姿をぜひ伝えたいと考えました。

算盤の存在を顧みると、江戸時代から明治、あるいは戦前戦後と時代の大変革とともに変化してきた日本の計算方式のほか、仕事のスタイルや社会の移り変わりを深く知ることができます。

そして、商売の象徴としての算盤、豪華な蒔絵や彫刻が施された美術品のような算盤など、その美しさ、歴史的なエピソードの面白さから多くの来場者が長い時間足を止めて鑑賞されている姿を目にします。

海外からも多くの方がお見えになるのですが、算盤の多彩な形状や道具としてのおもしろさに感激され、翻訳機を駆使して行う私の解説にも興味深く耳を傾けられています。

また、子ども向けに週末に特別講座を開催するほか、算盤に触って楽しんでいただけるようなイベントも館内で常時開催しています。春と夏には、この地域では最大となる2,000人規模のお祭りも開催しています。

ぜひ皆さんも当館を訪れ、算盤の奥深い魅力に触れていただければと思います。



白井そろばん博物館
館長 石戸 謙一さん

白井そろばん博物館とは？

白井そろばん博物館のオープンは2011年。今や世界中で親しまれている算盤を、単なる計算道具ではなく文化としてとらえ、その魅力を発信する日本唯一の算盤専門の常設展示を行う博物館です。

日本国内はもちろん世界中から集められた算盤の展示をはじめ、算盤をテーマにした多彩なグッズも購入可能な算盤の殿堂です。



多様な用途で作られた長尺そろばん

白井そろばん博物館には、多くの長尺そろばんが展示されています。180桁もある長尺そろばんもあり、館内に入っただけの場所に目立つように展示されています。この算盤のように、ほとんどの長尺そろばんは実用目的よりも儀式用や装飾品として作られました。なんと館内には、271桁もある、1本の木で作られた算盤として日本一長い算盤が展示されています。



世界中から集められた 約2,500点の算盤を展示中

白井そろばん博物館は、単に珍しい算盤を見せるだけでなく、来館者が日本の歴史や文化を深く理解できるような工夫がこらされており、算盤がたどった歴史の変遷や、社会に与えた影響を伝える多くの資料も展示されています。

また、館内には歴史的な逸話のある算盤もあります。展示室は「第一展示室：世界各国の算盤」「第二展示室：自分だけのオリジナル算盤作りを体験」「第三展示室：宝石などで作られた珍しい形の算盤」「第四展示室：主に日本の算盤」「第五展示室：昔の教本や文献」に分かれています。第五展示室の休憩スペースでは定期的に来場者が参加できるイベントも開催しており、参加した記念の賞状などももらえます。



▲白井の元禄算盤。白井そろばん博物館開館10周年記念に作られた日本一大きい天2算盤です。珠の大きさは直径5.2cm、厚さ3cm、枠の大きさは縦32cm、横362cmもあります。

いろいろな算盤

館内には世界中のいろいろな算盤が展示されています。子ども用のカラフルなものや、宝石を用いたもの、円形のもの、使用方法さえ想像がつかない形状のものもあります。それぞれに算盤の「地位」や各国の数字、計算へのスタイルや思いが込められていて興味が尽きません。



▲中国幼児用そろばん



▲ロシアそろばん



▲宝石そろばん



▲占い用そろばん

古算盤

館内に展示されている古い算盤の中でも、特に目立つのが天2、地5の天2算盤(上の段に2個、下の段に5個の珠がある算盤)です。現在の算盤に親しんだ方には不思議な形ですが、江戸時代の商いの場では一般的に使われていました。この7つ珠の算盤の使い方を調べると、当時の商いの様子や、すばやく計算するための賢い工夫なども見えてきます。



▲長崎そろばん



▲堺そろばん



▲大津そろばん



◀博物館前の木下街道沿いには、算盤を持った「そろばん道祖神」が設置されています。全部で21体のそろばん道祖神を探しながら歩くウォークラリーなども開催されています。

レターポスト

白井そろばん博物館の入り口の脇には、とても貴重な丸型ポストが設置されています。

これはレターポストと言って、丸型ポストの原型で、「POST」ではなく「LETTER」と入っています。ひさしには桜のマークも入っています。とても貴重で全国に3カ所しか残っていません。

かつて長野県で使われていたものを、白井そろばん博物館に設置したいと白井郵便局が要請したことで、このポストが置かれました。毎日取集があり、今現在でも現役で使われています。



●問い合わせ／白井そろばん博物館 白井市復1459-12
TEL.047-492-8890

すごい!このホンモノを見逃すな!

播州そろばん



博物館内で一番大きな第4展示室。象牙や真珠で作られた宝飾品のような算盤が展示されているショーケースの一角に、いかにも時代を感じさせる茶褐色の大きな算盤が展示されています。算盤の有名な産地で作られた天2、地5、27桁の播州そろばんです。

底板には「明治四辛未年二月調之」^{かのとみ}「松尾藩東松尾 杉村覚蔵定利所持」^{かくぞう きたとし}と書かれています。杉村覚蔵定利は松尾藩の算用方^{さんようかた}（会計係）の武士。この人物が今から150年以上前に所持していた算盤と推測されます。

松尾藩は、明治元年に掛川藩（現在の静岡県）から現在の山武郡芝山町に移封された藩で、柴山藩、松尾藩と改称しながら廃藩置県まで存続していた藩です。

藩の算用方を務め、いわば経理のプロと

して生きた杉村覚蔵定利はこの激動の時代、千葉の地でどのような人生を送ったのか。そんな事さえ思ってしまう。

この算盤の存在、そして底板に記された記録から、こんな歴史をたどることができる。これも人の大切な道具として身近に活用されてきた算盤ならではの楽しみです。



イベントに行ってみよう!

このようなイベントもやっています

白井そろばん博物館では、どなたでも参加できるさまざまなイベントを定期的開催しています。ぜひ参加してみてくださいね。



【そろばん博士検定試験】

算盤の伝来から現在までの歴史や計算方法、歴史上の人物等の問題が出ます。初歩の「入門生」から10段階で最上位の「大博士」まであります。学習用のテキストは販売をしていて、館内で受験することができます。



【そろばん脳トレーナー】

計算ゲーム「そろばん脳トレーナー」は、子どもたちが楽しめるのももちろん、大人にも人気があります。高齢者の健康維持への貢献も期待できます。

《もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館》今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」の第14回をご覧ください。



白井そろばん博物館に展示されている長尺そろばんで、1本の木で作られた算盤として日本一長い算盤は何桁あるでしょうか?
次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① 27桁
- ② 180桁
- ③ 271桁

取材協力・撮影協力・写真提供／白井そろばん博物館

プラスαで、未来とともに。

京葉銀行

ホームページでもご覧いただけます。

京葉銀行 情報誌

検索

LINE、Xからも「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」を配信しています。

LINE 公式アカウント

@keiyobk_official



X 公式アカウント

@keiyobkofficial



正解は→③ 271桁

2026.2
(次回発行予定/
2026年3月19日)